

## 仙人通信 86 烏帽子岳(2066m)湯の丸山(2101m)

烏帽子岳は上田市と浅間山の間位置した那須火山帯の西南端の山で、そのカルデラに出来た溶岩円頂丘が湯の丸である。この2山と溶岩円頂丘の角間山までを計画してみた。地蔵峠のスキー場の駐車場に車を置き、放牧された牛やリフトを横目に、キャンプ場への林道を進む。道の横ではヒヨドリソウ・コオニユリ・ウツボグサ・ソバナが咲く。10分程でキャンプ場そしてアサマフーロやコオニユリが咲く臼窪湿原である。キャンプ場から20分程で唐松林を過ぎるとツツジ平からの中分岐である。落葉樹の登山道となり、前述の花に加えソバナ・ツリガネニンジン・アザミ・キンレイカ・ヤマルリトラノウ・ギボウシ・ムシカリ・アキノキリンソウが咲き誇る。見惚れていた為か、あつという間に湯の丸との分岐の鞍部である。鞍部からは烏帽子岳の山容が青空にくっきりと望め、命名の故が理解できる。烏帽子の手前の偽烏帽子(可哀想な!)までの25分の登りはキツイ。大きな木もなくピンクのクルマバナやタカネナデシコ・シシウド・コウリンカ・ダケフキも加わり花の多さに嬉しさの悲鳴だ。緩やかな尾根の登山道では、マツムシソウ・イブキジャコウ・シシウド・ボウフウ・クガイソウ・黄色いイワインチン・蕾の先端が濃いピンクの穂ツツジ・ウスユキソウ・ヤマハハコである。20分程で山頂に着く。西側の爆裂火口の先には、大富士・殿城・笹ツブレ・ゴトミキの寄生火山が、東側のカルデラの壁から円錐形の湯の丸が立ち上がり、三方が峰も眼前に広がる。小諸の町の先には八ヶ岳・蓼科山・甲斐駒・北アルプスの峰・四阿山と360度の眺望である。イブキジャコウにカメラを向けながら、鼻を近づけると僅かにハッカに似た香りを感じ「これがジャコウか!!」なんて独り言が出た。登って来た道を鞍部まで戻り湯の丸山頂まで2時間のゆっくりした散策を楽しんだ。湯の丸の岩石は、ポーラスな白い岩に僅かに光る石英と黒い斑のしそ輝石安山岩が主体である。湯の丸は烏帽子岳より標高が高い分だけ展望が利き、同じ溶岩円頂丘の角間山・棧敷山・小棧敷山・箆の登山・三方が峰が浅間山の手前に円錐形の山容を成す。遠望は烏帽子と同様に360度だ。山頂で地図で道程を確認すると角間山へのピストン2時間は、時間的に無理と判断し、角間峠からコンコン平・県道経由の約3時間コースに変更しての下山とした。箆で覆われた角間峠までは1時間である。トリアシショウマ・黒いクロマメの実・赤いコケモモやシシウド・イブキジャコウ・黄色いダケフキ・ツリガネニンジン・萩・オンダテ・オトキリソウ・シロバナクモマニガナ・黄色のクモマニガナ等、花では負けていない尾根だ。キツネ程の金色に輝く毛のテンが草むらから飛び出して、小生を見る「大丈夫だよ。逃げなくても・・・」なんて声を出してしまった。角間峠からは猿飛佐助の修行の地といわれるコンコン平へ向う。蕨の新芽を摘み、辺りを見渡すとシロタマノキが一群をなして咲いていた。花・花・・の6時間半の山旅となりました。(h21・8・12)

烏帽子への花回廊



烏帽子山頂



シラタマの木

